

**第3回津島市第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
議事概要**

令和8年7月17日（金）

午後14時00分から15時00分まで
津島市役所 5階 第1委員会室

出席委員：伊藤委員長、加古委員、春日委員、鈴木委員、秀徳委員、杉浦（美）委員、長田委員、野田委員、日比委員、伊藤委員、徳永委員、森口委員、中川委員

欠席委員：杉浦（嘉）委員、山田委員

<次第>

1 開会

2 議題

（1）第10期津島市高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画について

（2）その他

<会議録>

（1）第10期津島市高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画について

○事務局より、資料1、資料2の説明

委員長

- ・ 調査結果についてご意見・ご質問がある方はいますか。

委員

- ・ 高齢化率について、令和7年度は30.1%、令和8年度は30.2%と推移してきていることがわかるが、参考として同期間における全国と愛知県の高齢化率もご教示いただきたい。

事務局

- ・ 全国と愛知県の高齢化率についてはデータがないため回答できないが、高齢者の人口推移は、増減するタイミングや変化割合がほぼ同様である。これに対して本市では、65歳以上、75歳以上、85歳以上いずれの年代でも増減するタイミングが国や県にやや先行するのが特徴である。

委員

- ・ 認定率について、令和 7 年度においては本市が 18.3%、愛知県が 19.1%、全国が 20.5%であり、本市は比較的に低い値をとっている。この背景要因についてどのように分析しているか。

事務局

- ・ 本市は介護予防に注力しており、重度化を防ぐための取組みや窓口対応を重点的に行っているため、このことが影響していると考えられる。

委員

- ・ チームオレンジ『つしまオレンジサポーターの会』について、定期的に活動されていることと思うが、参加者数はどのようなになっているか。

事務局

- ・ 定例会は毎月実施されており、1 回あたりの参加者は 15 名程度（登録者は 20 名程度）である。

委員

- ・ 現状を踏まえた課題として、高齢者が自ら介護予防に取り組むことのできる場があっても、新規の参加者が少ないことや実施場所が限られていることが挙げられているが、本会を引き続き展開していくことは重要であると感じている。
- ・ 介護人材の維持・確保を念頭に処遇改善についても考えていかなければならない。そのためにも今期計画は重要であるため、引き続き検討をお願いしたい。

委員

- ・ 高齢者世帯等の推計について、令和 7 年度以降が推計値となっているが、今年の秋ごろに公表予定の国勢調査を踏まえた実績値は記載されるのか。
- ・ 認定者数の将来推計について、要支援 1 から要介護 5 までの値が載っているが、総合事業の事業対象者の値についての掲載予定はあるか。

事務局

- ・ 世帯等については国勢調査の確定値が公表され次第、実績値として掲載する予定である。
- ・ 事業対象者の掲載は検討する。本市では、事業対象となる期間が過度に長期化せず、必要な人に適切なサービスを届けられるよう窓口対応を方針づけているため、今後、事業対象者数は減少する可能性がある点はお含み置

きいただきたい。

委員

- ・ 基本方針3「認知症になっても自分らしく暮らし続けられる環境づくり」について周知・啓発がなされることと思われる。認知症は、避けがたいものではなく、早期発見や予防が可能なものであるという点も含めて、市民に対して周知を進められると良いと考えており、医療との連携も図ることができれば良い。今後、計画へ内容が反映できるよう検討していただきたい。認知症治療薬も将来的には安価になっていくことも想定され、対象となる患者も増加するのではないかと思慮している。

事務局

- ・ 次回以降の委員会では政策もご議論いただきたく、引き続きご意見を賜りたい。

委員

- ・ 周囲の高齢者をみていると、一定期間介護保険サービスの利用がなく有効期限が来た場合に、再度申し込みが必要となり手続きが煩雑であるという声があるようだ。分かりやすい手続きや丁寧な説明が今後より一層必要となると考えている。

事務局

- ・ ご意見として承った。

委員

- ・ 認知症に関する周知・啓発について、認知症になるとどのような状況になるのかを、若いうちに知っておけると良いのではないか。日頃の周知・啓発の取組みに活かしていただきたい。

事務局

- ・ 本市では、現在、小・中学校、一般企業に対して認知症サポーター養成講座が行われている。認知症に関する基礎知識も内容に含まれているため、こうした機会が有用であると考えられるが、まだ周知不足であるため、引き続き活用を図っていききたい。

委員長

- ・ 最近では「新しい認知症観」というキーワードも国の計画などで挙がってきている。こうした視点も込み、取り組んでいただければと思う。

委員

- ・ 歯周病と認知症の関連もエビデンスが増えてきている。こうした状況も踏まえ、介護予防の観点でも歯科は口腔ケアに努めてきているところである。歯科に受診しに来るのは健康関心層であり、こうした層には歯科としてアプローチすることができるが、そうでない人には支援ができない実態もある。適宜、情報周知などの観点で行政とも連携させていただければと思う。

事務局

- ・ ご意見として承った。引き続きご協力を賜りたい。

委員

- ・ 取組として「適切で質の高い介護保険事業の推進」とあるが、ケアマネジャーに対する法定研修受講費用補助の内容について、ご教示いただきたい。

事務局

- ・ 事業者が、対象の法定研修を実施した場合、費用の 8 分の 3 を市が負担するものである。これは今年度から開始し、随時受付を行っている。すでに補助金の申請を行っている事業者もあり、今年度の取組み結果も踏まえ、ニーズを把握した上で、次年度以降につなげたい。

委員

- ・ これは議会から提案した事業であるが、人材確保が難しい中、是非継続して、受講事業者を広げていただきたいと思う。

(2) その他

○事務局より、今後の委員会スケジュールの案内

以上